

第71回
経済学部

講演テーマ 「証拠に基づく政策立案」で必要な証拠とは？

講演者 まんぎょう えいじ
萬行 英二 教授

経済学研究科 国際経済政策研究センター



教員の講演内容

より良い社会を目指して、政府は政策を立案して実行します。例えば、昨今では少子化が危惧されており、政府は、高校教育の無償化、保育所の整備、男性の育休取得促進などの少子化対策を実施してきましたが、これらの政策は出生数の減少に歯止めをかけることに役立ったのでしょうか。少子化対策に限らず、近年では「証拠に基づく政策立案」が志向されていますが、政策立案に必要な証拠とはどのような証拠でしょうか。この講演では、研究者が示そうとしている証拠とはどのようなものか、さらには研究における最難関ポイントをお話します。

◆研究トピックス

世の中には、健康な人もいれば、そうでない人もいます。高学歴な人もいれば、そうでない人もいます。これは厳然たる事実ですが、それではどのようにしてこのような格差が生まれるのでしょうか。健康や教育などの人的資本に格差が生まれるメカニズムについて研究をしています。研究内容は、端的に言えば、「AがBを引き起こした」ことを実証的に示す(データを使って証拠を提示する)ことです。
例:(開発途上国において)清潔な水を使えるようになると子供の健康は改善する。

■ 13:00～
名大教員による講演
■ 14:00～
大学院生による講演
■ 14:40～
質疑応答

大学院生の研究内容 ①

所属・専攻: 経済学研究科 社会経済システム専攻
専門分野: ネットワーク経済学

私たちは、友人関係やビジネスのつながり、SNS上でのフォロー・フォロー関係など様々な社会的なつながりに影響されながら行動しています。例えば、友人が使っているアプリを自分も使い始めたり、進学先や将来の仕事について周囲の意見を参考にしたりすることがあります。ネットワーク経済学では、このように選択とつながりが互いに影響し合う仕組みを分析します。その中でも私の研究は、政府や自治体といった政策決定者の立場に立って、誰に補助金を出せば望ましい状態を達成できるのかを数理モデルを使って分析しています。人々がつながりの中で相互に影響しあうため、これらの社会的な影響も詳細に考慮することでより効果的な政策を実行できるのです。

大学院生の研究内容 ②

所属・専攻: 経済学研究科 産業経営システム専攻
専門分野: 財務会計

企業が一定期間にどれくらい利益を稼いだか、という企業の業績は、財務諸表というかたちで公開されます。財務諸表は、基準設定機関により制定される、会計基準にしたがって作成されています。
私の研究は、その会計基準を制定する際の基礎となる、会計原則に関する研究です。具体的には、株主から払い込まれた資本と、その資本を用いて生み出した利益を区分しなければならない、という原則について、「なぜその原則が必要なのか?」「どこまでが資本といえるのか?」「そもそも資本とは何か?」などの視点から、検討をおこなっています。

第72回
農学部

講演テーマ フィールドサイエンスの魅力

講演者 なかがわ みちこ
中川 弥智子 准教授

生命農学研究科 森林・環境資源科学専攻



教員の講演内容

農学部、特に森林に関連する研究では、現場での調査が欠かせません。興味深い現象を発見・観察したり、予想外の結果に頭を悩ましたりしながら、その背景にあるメカニズムや自然の原理を、関連分野の技術や知識も絡めながら理解する学問の醍醐味を皆さんと共有したいと思います。

本講演では、世界の様々な森林での私の体験談も交えながら、フィールドサイエンスの最先端の研究を紹介します。

◆研究トピックス

世界には様々なタイプの森林が存在し、そこには多様な種の樹木が生育していますが、その特徴や機能の違い・類似性に着目した研究を進めています。一見、変化がないように見える森林も、刻々と、そして時には劇的に変化します。気候変動によって温暖化や乾燥化の進行が懸念されている昨今、その生育環境の変化が樹木、ひいては森林に与える影響の評価や予測を目指して、アジアの様々な森林でフィールド研究を展開しています。

■ 15:00～
名大教員による講演
■ 16:00～
大学院生による講演
■ 16:40～
質疑応答

大学院生の研究内容 ①

所属・専攻: 生命農学研究科 動物科学専攻
専門分野: 遺伝学

私たちの体では、精子や卵子といった生殖細胞がつくられ、親のDNAが子へ受け継がれます。この過程では「減数分裂組換え」という仕組みによってDNAが組換えられ、遺伝の多様性が生まれます。その際DNAは一時的に切断されますが、DNA切断は本来とても危険で厳密な制御が必要です。しかし、その制御の仕組みには未解明な点が多く残されています。私はDNA上の「付箋」や「マーカー」にあたるエピジェネティック修飾に着目し、それがDNA切断と組換えの制御に果たす役割を明らかにすることを目指して研究しています。

大学院生の研究内容 ②

所属・専攻: 生命農学研究科 応用生命科学専攻
専門分野: 分子生物学

私は現在、生物の力を借りて物質を生み出す「バイオものづくり」の研究をしています。この分野では、遺伝子の編集や導入によって有用物質を生産しますが、目標とする生産量に届かないケースがしばしばあります。その際、培養条件の検討や遺伝子の再設計といった「最適化」が必要となりますが、これには膨大な時間と労力がかかるという課題があります。私は、特にタンパク質生産に焦点を当て、タンパク質の設計図となるDNAに短い配列を付け加えて生産量を増大させる技術について研究しています。将来的には簡便な遺伝子操作でどんなタンパク質でも安定して生産できる画期的なプラットフォームの確立を目指しています。